

WEEKLY REPORT

[名古屋東南ロータリークラブ・ウィークリーレポート]

<http://www.rc-nagoya-southeast.com/> E-mail / serc@h3.dion.ne.jp



07-08 年度 RI 会長
ウィルフリッド
J. ウィルキンソン



■承認 / 1969年3月12日
■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル
■会長 / 伊藤 秀雄 ■幹事 / 水野 恒平
■クラブ情報委員長 / 杉浦 亘
■事務局 / 〒450-6002
名古屋市中村区名駅 1 丁目 1 番 4 号
名古屋マリオットアソシアホテル 2203 号
TEL.052-583-0010 FAX.052-583-0009

I.M.

～取り戻そう！日本人の誇りと自信を～

1911 回例会

2008年2月18日(月) 晴 第30回

斉唱 「それこそロータリー」
出席 会員 83 名 出席 50 名
出席計算人数 70 名
出席率 71.42% 前々回修正出席率 91.66%

第一部 式典並びに講演会

●開会並びに歓迎の言葉

(第 2760 地区西名古屋分区 杉本 仁至ガバナー補佐)
皆さん、こんにちは。本日はたくさんの方に出席をいただきましてありがとうございます。

さて、ガバナー補佐訪問でも申し上げましたが、RC は 1905 年にアメリカのシカゴでポール・ハリスをはじめとする 4 人のメンバーで誕生いたしました。しかし、RC も誕生して 100 年以上がたち、少し疲労してまいりました。初期の理念も薄れ、クラブにも指導性がなくなりつつあります。江崎ガバナーはこの状況を大変心配いたし、対策を練り、改善すべく一生懸命陣頭指揮をとっておられます。心より敬意を表したいと存じます。

この状況を作ったのは、国際ロータリーにあると思います。国際ロータリーによる、会員数の減少をカバーするためのテリトリーの変更、一業種会員一人の原則の変更、出席規定の緩和等々の施策は、日本人の心、精神、そしてロータリー文化と大きくかけ離れていると思います。ロータリーの目的、目標である綱領は同じであります、それを達成する手段は日本文化に基づいた、日本の手法で行うべきだと思っております。

一つの表れが、ロータリーの例会や会議で掲げられております国旗であります。国旗がロータリー旗に従い、縦長に張られているのを多く目にいたしますが、日本の国旗は縦横 7 対 10、中央に赤丸と法律で定められております。何でもアメリカに従うのはやめたほうがよいと思います。

我々は日本のロータリー文化を基軸に、ロータリー活動・運営をすべきではないでしょうか。現在の日本もグローバリズム・市場原理主義のもとに市場にはびこった金銭至上主義により、経済的にも社会的にも閉塞感の強い状況下にあります。日本には惻隱の情、非法を憎む心、名誉・誠実・正義を重んじる武士道の精神があります。それを取り戻し、日本人の誇りと自信を持つようではありませんか。本日は『国

家の品格』の著者、藤原正彦先生においでいただきました。本日の IM が実りのある大会でありますことを祈念申し上げあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

●祝辞

(国際ロータリー第 2760 地区ガバナー 江崎 柳節君)
皆様こんにちは。ここに西名古屋分区の IM がこのように盛大に行われますことを心からお喜び申し上げます。杉本ガバナー補佐はじめ、山内実行委員長さん、伊藤クラブ会長さんをはじめ、名古屋中ロータリークラブの皆様のご尽力でこのようになりつばな IM ができたことを本当に素晴らしいことだと思っております。

この IM のテーマは「取り戻そう！日本人の誇りと自信を」です。IM は今のロータリー焦点、それから手続要覧からは消えておりますが、これこそ日本ロータリーの文化であると思っております。今後ともこの分区を単位とした、団結と総決起、そして学ぶ会というものを、ぜひ続けていただきたいと思っております。

本年度の地区のテーマは「違いをもたらそう」ということです。ロータリアンという非常に志の高い、しかも日々進化しようという志を持った集団ですから、「何かいいことをしよう、奉仕しよう」という諸団体とは違うところを、常にポイントとして押さえておかなければならないと思うのであります。この「違いをもたらそう」というテーマのもとに、五つの問題点を挙げさせていただきました。

一つは会員増強です。そのためにクラブが、研修をしたり、意欲を喚起しているかどうかを、私どもは反省しなければなりません。

もう一つは、真のニーズに合った奉仕が、本当に行われているかどうかということです。私どもは、専門性・指導性豊かな理念に燃える人たちの集団でありますから、常に地域におけるニーズ、行政ではできなかった、あるいはいろいろな現在のシステムでは追いついていないというような問題点を探って、それを堂々と地域に、そして国際社会に展開していくことが必要だと思っております。

もう一つは、ロータリーの公共イメージの高揚です。我々が日夜研鑽して努力して、あるいは生きがいを感じているこの行為が、世の中に認知されていないということは、私どもが大いに反省すべきことであります。

それからもう一つは、クラブを超えた指導者の育成です。例えば分区内でいろいろな資質のある人をみんなで発掘したり、集団でいろいろ協力し合って、そして育成するということがない限り、これだけの集団の指導には、今の指導体制では問題があると思っております。

最後は奉仕の資源を皆で理解しよう、ロータリー財団、

米山でございます。これはロータリーの誇るべきひとつの業績であることに間違いありません。

ロータリーは友情ということをよく言いますが、このIMは西名古屋12ロータリークラブの皆様がたの見事な団結の結果でございます。本当に異議のあるIMをやっていたかきましてありがとうございました。

●次期ガバナー補佐挨拶

(名古屋瑞穂 RC 近藤 雄亮君)

名古屋東南 RC 会員で、地区の社会奉仕委員長をされております伊藤秀雄さんが、AEDの普及をかなり熱心にされております。先日、私の会社もAEDを設置させていただきました。その折に、消防署から来た講師のかたのお話で、心に残った話がありますのでご紹介させていただきたいと思えます。

まず、どんな小さなことでもいいから勇気を持ってやってくれということです。倒れている人がいたら「どうしましたか」という声をかける勇気を持ってほしいと。次に、倒れている人が息をしておるかどうかということを確認するために、顔のそばに耳をそっと近づけて、「見て、聞いて、感じて」、90秒ぐらいで判断してほしいと、こう言っておりました。もう一つは、息が止まっておることが分かったときに、近くの人に声をかけて、「皆さん、集まってください」という声を出すわけですが、そのときにはきちんと指をさして「あなた、119番に電話して救急車を呼んでください」「あなた、AEDを持ってきてください」「あなた、もっと大勢の人を集めてください、中にお医者さんがみえれば連れてきてください」ということをきちんと言わなければだめだと、こういうふうなことを聞きました。

私は、ロータリー活動をやっていくうえでも、少しの勇気が必要だと思えます。それから、ここにご列席の皆様も、ロータリアンがいったい何をやっているんだと、何を考えているんだと、どんな思想でやっているんだということを見て、聞いて、そして感じるということがすごく大切ではないかなというふうに思えます。私はガバナー補佐という大役をこれから務めさせていただくわけですが、皆さんがたに無理難題をお願いすることが多々あると思えます。そのときには「何々ロータリーの皆さん、よろしくお願ひします」とか「何々ロータリーのだれだれさん、お願ひします」という感じでお願ひすることがあるかと思えます。そのときには、ぜひロータリーの友情をもって快く引き受けていただきたいなというふうに思えます。どうぞよろしくご指導のほどお願ひ申し上げます。

●次期IMホストクラブ会長挨拶

(名古屋瑞穂 RC 松井 善則君)

今日まいりまして、中クラブさんが全員のかたのお力でりっぱな大会をやられたことを、大変ひしひしと感じてまいりました。今年はIMということでございますが、次年度は「分区大会」ということでございますので、一生懸命私どものメンバーが一致団結して、りっぱな大会をやることにしたいと思います。より多くのかたのご登録をお願いしまして、私のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

今日の講演につきましては、著作権の関係上、後日記念誌として発行される予定でございます。

第二部 懇親会

●歓迎のことば (名古屋中 RC 会長 伊藤 秀樹君)

今日は大変たくさんのかたにお集まりいただいて、本当にありがとうございます。思い起こしますと、杉本ガバナー

補佐は会長時によく文化と温故知新——古きを尋ねて新しきを知ると——と言われていました。ぜひ各人、それぞれが今日の藤原先生のお話を聞いていただいて、家庭に、会社に、あるいは地域社会に、ぜひいい影響を与えていただくような、そんな一助になればこれ以上のしあわせはないかと思えます。

最後になりますが、一部が講演会、二部は皆様よくご存じのかた——ピアノと歌手——をお呼びしております。一部と二部はつながっております。あとで司会者の鈴木君から宴席盛んなときに少しご説明が入るかと思えますけれども、単純なアトラクションを企画したつもりはございません。一部のお話、先生が『日本人の矜持』の中に書かれていた文章からアレンジしながら説明しますので、ぜひ司会者の、若い鈴木君の言葉に耳を傾ける時間を数分だけいただけたらもっとしあわせかと思えます。それではぜひ、懇親会をお楽しみください。

●挨拶 (第2760地区パストガバナー 盛田 和昭君)

私は若いころ、創業時代のソニーにいました。あの会社では、コンサルタント・評論家・学者さんとかいう人の話は絶対聞くなということになっています。そういう人たちは、言ったことが間違っても、責任を持たなくてもいいんですよ。ところが経営者は、自分の行動がすべて業績に跳ね返るから、全部自分の責任になるわけですね。だから、人の言うことを聞いて会社をやっちゃいけない、自分の信じたとおりにやりなさいという教育を受けてきましたので、私はあまりそういう講演は聴かないことにしてたんですが、今日はとてもいいお話を聞かせてもらいました。

設営された中クラブの皆さんに感謝をいたしまして、来年のIMも面白くやってくださいということをお願いして、ごあいさつに代えます。ありがとうございます。

●乾杯 (第2760地区パストガバナー 加納 泉君)

名古屋中 RC の加納でございます。今日はロータリアンでよかったという自信を、皆様大変強くお持ちになったのではないかと思います。中 RC では、心から皆様に歓迎申し上げます、祝杯を挙げたいと思えます。ご唱和をお願いいたします。乾杯！ありがとうございました。



藤原 正彦氏

250万部を超えるベストセラー「国家の品格」で日本のあるべき姿を解いた著者

演題『取り戻そう！日本人の誇りと自信を』